
すみだ環境共創区民会議

活動報告書

令和5年度・令和6年度



目 次

1	すみだ環境共創区民会議の概要	1
2	これまでの活動内容	2
3	今期のテーマ・活動内容	3
	（1）今期のテーマ	3
	（2）今期の活動内容	3
	ア フィールドワーク	3
	（ア）花と緑のフィールドワーク	3
	（イ）雨水ネットワーク全国大会への参加	8
	イ 区民への情報発信の強化	9
	（ア）区公式ウェブサイト上での情報発信	9
	（イ）すみだエココラム（すみエコ）の配信	10
	（ウ）区民への情報発信の検討	11
	ウ すみだ環境フェアへの出展	12
	（ア）令和5年度すみだ環境フェア	12
	（イ）令和6年度すみだ環境フェア	15
	エ 「緑の維持・育成」に関する検討	17
4	区に対する提言	21
	（1）花と緑の特区の創設	21
	（2）花と緑を活用した情報発信	25

1 すみだ環境共創区民会議の概要

すみだ環境共創区民会議は、平成7年度に策定された墨田区環境誘導指針に基づき、区が行う施策等について区民及び事業者の意見・要望を反映させるために、「すみだ環境区民会議」として設置されて以来、2年間で1期として活動している。その後、平成18年度に施行されたすみだ環境基本条例により、区における環境の共創（※）に関する施策を総合的に推進するための会議として位置づけられ、名称を「すみだ環境共創区民会議」と改めた。

なお、すみだ環境基本条例では、すみだ環境共創区民会議（以下「区民会議」という。）は次に掲げる事項を行うこととしている。（すみだ環境基本条例第20条第2項）

- 環境基本計画（すみだ環境の共創プラン）のうち、区民及び事業者の活動と区の施策との整合性に関し協議すること。
- 環境の共創に関する実践活動を行うこと。
- 環境の共創の推進について、必要に応じ区長に意見を述べること。
- そのほか、環境の共創の推進に当たっての重要な事項に関し、協議すること。

※ 環境の共創とは「良好で安全かつ快適な環境の維持、回復及び創造並びに環境との共生をいう。」（すみだ環境基本条例より）



区民会議写真

2 これまでの活動内容

期数	主な活動内容
1 期目 (平成 18 年度)	会議の運営方法や活動テーマの検討、環境基本条例の普及・啓発、環境基本計画策定に関する議論、花王墨田工場や区内公園の見学会
2 期目 (平成 19・20 年度)	雨水、エネルギー、公園、ごみ問題など多様なテーマに関する勉強会、墨田区の生き物についての講演会、省エネ生活の調査、スカイツリー環境影響評価の勉強会
3 期目 (平成 21・22 年度)	「すみだ環境区宣言」に関する議論、緑と生物をテーマとした活動（緑と生物の現況調査、緑の基本計画、緑と環境、区内道路公園の緑や東京都の緑の計画に関する講演の聴講、尾瀬での宿泊研修など）
4 期目 (平成 23・24 年度)	「すみだ環境の共創プラン」の改定に向けた意見集約、環境フェアへの出展開始、緑化やすみだ環境区宣言の周知方法に関するグループ討議
5 期目 (平成 25・26 年度)	「すみだ環境の共創プラン」の基本目標についての勉強会、水・緑・ごみの 3 つのテーマについての勉強会、グループ討議及び提言のとりまとめ
6 期目 (平成 27・28 年度)	「第二次すみだ環境の共創プラン」の意見交換、荒川をテーマとした施設見学会、勉強会や現地調査、環境フェア・すみだまつりでの荒川に関する区民意識調査
7 期目 (平成 29・30 年度)	区内の緑と生物をテーマとした活動（環境フェア・すみだまつりでの環境マップの作成や意識調査、区内外の緑化関連施設の見学、専門家の講演聴講、緑と生物の現況調査結果の報告・意見交換など）、ごみ・リサイクル問題についてのアンケート調査
8 期目 (平成 31 年(令和元年)・令和 2 年度)	「第二次墨田区緑の基本計画」の策定に向けた意見交換及び区への意見表明、区内緑のフィールドワーク、今後の緑化の進め方に関する意見交換
9 期目 (令和 3・4 年度)	「第二次すみだ環境の共創プラン」の中間改定及び「第二次墨田区緑の基本計画」の策定にあたっての意見交換、「気候変動」をテーマとした活動（区民ができる行動、PR 方法、気候変動対策の具体策の検討、「がすてなーに ガスの科学館」で見学研修）、墨田区の雨水利用や電力需給に関する講義

3 今期のテーマ・活動内容

(1) 今期のテーマ

前期のテーマが「気候変動」であったことを踏まえ、気候変動・地球温暖化対策として緑が果たす役割が重要であることから、区内の緑を豊かにしていくことを目的として、「緑の維持・育成」をテーマに今期の活動を行った。

また、活動の際には、区民の関心を高めるための情報発信に重点を置いた。

(2) 今期の活動内容

ア フィールドワーク

(ア) 花と緑のフィールドワーク

区内の現状や取組を知り、今後の「緑の維持・育成」に向けた行動、取組、施策などを検討するために、区内の花と緑に係る取組が行われる現場等を見学した。

○実施日

令和5年11月12日(日) 午前(10名の委員参加)

令和5年11月19日(日) 午後(11名の委員参加)

○当日見学ルート

【11月12日(日)】

緑と花の学習園 → あずま百樹園 → わんぱく天国(遊園緑化) → プリメール柳島(まちなか緑化) → 業平公園(公園緑化) → おしなり商店街(まちなか緑化) → 東京スカイツリー付近のハンギングバスケット

【11月19日(日)】

東向島駅周辺の寺島なすのプランター → 向島百花園 → 東白髭公園 → たもんじ交流農園 → 鐘ヶ淵通りのまちなか緑化

○当日写真

【11月12日(日)】



緑と花の学習園(上・右)





十間橋通りまちなか緑化



わんぱく天国



ブリメール柳島まちなか緑化



業平公園



おしなり商店街



東京スカイツリー周辺のハンギングバスケット

【11月19日（日）】



東向島駅周辺



向島百花園（上・下）



東白鬚公園



たもんじ交流農園

○委員からの意見（抜粋）

【緑と花の学習園】

- ・学習園の活動を発信する手段（SNS等）があるとよい。
- ・学習園に花の名札があるのは勉強になった。プランターの花も名札があるとよい。
- ・学習園のように活動している人の顔がわかるとよい。
- ・活動を知らなかったが、知ってもらう場が環境フェアだと思った。

【東向島駅前周辺の寺島なすのプランター】

- ・東向島駅前に寺島ナスなどの江戸野菜が植えられているのはよいと思ったが、反対側のプランターは枯れており、管理している事業者に働きかけた方がよい。
- ・寺島ナスをもっと普及させてほしい。

【向島百花園】

- ・百花園は自然を残した庭園となっていてよい。対照的に百樹園はもう少し自然を残してほしい。
- ・百花園は季節によって違う景色が見られると思うので、また訪問してみたい。

【東白鬚公園】

- ・広大な敷地の公園があることを知れてよかった。人通りが少なく、イベントがあってもよい。

【たもんじ交流農園】

- ・たもんじ交流農園のように虫と植物の両方が生育できる環境づくりが大切。
- ・企業とコラボして屋上も緑化に活用していければよい。
- ・農を楽しむ区民が多くいると感じた。より広い農園が創設されたら、多くの区民が農体験を楽しみ、コミュニティが育まれ、魅力あるまちづくりに発展していくと思った。

【全体・その他】

- ・初めて訪問する場所ばかりだった。区内に魅力的な場所があることを発見した。
- ・人の顔が見えるような管理が好ましい。
- ・大横川親水公園のように緑と水があるとよい。
- ・区民も手をかけられる場所があるとよい。
- ・向島地区と本所地区を比較すると、圧倒的に向島地区の方が、緑が多い。
- ・まちなか緑化のプランターが目立っていなかったなので、もっとアピールしてもよい。

- ・鉢植え等で区民の意識の高さを感じたが、区民に向けて具体的にどう発信していくかが大事だと思った。
- ・種のやり取りで周囲との交流ができる。あっという間に広まっていくのが面白い効果。
- ・路地園芸が盛んであると、空き巣の減少につながる。
- ・まちなか緑化については、意識が低い事業者に働きかけることも必要である。

（まとめ）

今回のフィールドワークで新たに知ったスポットや取組も多く、区民への情報発信の重要性を改めて認識した。すみだ環境フェア等のイベントや SNS の活用などどのように情報発信していくかが課題である。

まちなか緑化については、事業者との連携や働きかけを行っていくことが必要である。また、人の顔が見える管理、緑や花を通じたコミュニケーションがあると、緑が豊かになるだけではなく、コミュニティが育まれるなどのメリットもあることを認識した。

(イ) 雨水ネットワーク全国大会 2024 への参加

区民会議の委員の多くが、「第 14 回雨水ネットワーク全国大会 2024 in すみだ」に参加した。雨水活用の重要性について再確認するとともに、グリーンインフラなど緑の維持・育成と雨水活用を組み合わせる事例について多く学ぶ機会となった。

特に分科会「雨とネイチャーポジティブ～雨水を活用した都市緑化の可能性」では、「雨樋プランター」、「たもんじ交流農園」「自分でできる雨庭づくり」などの事例が紹介された。

- 開催日 令和6年8月3日及び4日
- 場 所 すみだリバーサイドホール、墨田区役所ほか
- 主 催 雨水ネットワーク全国大会 in すみだ実行委員会、墨田区



イ 区民への情報発信の強化

(ア) 区公式ウェブサイト上での情報発信

令和５年度すみだ環境フェアでのブース出展での意見等を踏まえ、まず、すみだ環境共創区民会議の活動を知ってもらい、区民に環境に関心をもってもらうことを目的として、区公式ウェブサイトの中に区民会議のページを作成した。

ページには、活動内容、メンバー構成、活動実績、今期の目標等を掲載した。

【すみだ環境共創区民会議ページ（抜粋）】

すみだ環境共創区民会議の活動紹介

すみだ環境共創区民会議とは

すみだ環境共創区民会議は、「環境にやさしいまち、すみだ」を区民の目標と一丸となってつくっていくチームです！
2022年までのカーボンニュートラル（地球温暖化防止のための温室効果ガスの排出を削減すること）を目標として活動しています！

「区民会議では、基地区や特定する地域の基本計画について、どうすれば区民の皆様の意識や行動に変わらせるかを話し合っているんです！」

区民会議のメンバー
タカキ 健太

「ちょっと変わった！」そもそも、区民会議って何？

具体的な活動内容

主に、次のような活動をしています。

- すみだ環境フェアへの出展（毎月）
- 地区民や区内の企業・団体などのチームビルディング（不定期）
- 活動の記録（毎月第4金曜日）
- 活動の報告（毎月第4金曜日）
- 活動の記録（毎月第4金曜日）

メンバー構成

現在は合計12人のメンバーで構成されています。

メンバーは、環境にかかわる活動をしている団体、企業からのほか、一般区民からの参加も大歓迎です。

（代表者の氏名、所属の団体・企業、活動の分野）

なぜ「カーボンニュートラル」を目指すのか

地球温暖化は、気候変動を引き起こし、自然災害の頻発や生態系の崩壊など、私たちの暮らしに大きな影響を与えています。そのため、地球温暖化の防止と気候変動の適応を目的として、カーボンニュートラルを目指す必要があります。

カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出と吸収のバランスが取れた状態を指します。具体的には、排出量と吸収量が等しくなることです。

2050年までにカーボンニュートラルを実現するためには、再生可能エネルギーの活用や省エネルギーの推進など、様々な取り組みが必要です。

区民会議は、区民の皆様の意識や行動に変わらせることを目指しています。

区民会議のメンバー
タカキ 健太

「ちょっと変わった！」そもそも、区民会議って何？

具体的な活動内容

主に、次のような活動をしています。

- すみだ環境フェアへの出展（毎月）
- 地区民や区内の企業・団体などのチームビルディング（不定期）
- 活動の記録（毎月第4金曜日）
- 活動の報告（毎月第4金曜日）
- 活動の記録（毎月第4金曜日）

メンバー構成

現在は合計12人のメンバーで構成されています。

メンバーは、環境にかかわる活動をしている団体、企業からのほか、一般区民からの参加も大歓迎です。

（代表者の氏名、所属の団体・企業、活動の分野）

(イ) すみだエココラム (すみエコ) の配信

「すみだ環境の日(以下環境の日という。)」を活用する取組の 1 つとして、区民に環境に関心をもってもらうことを目的に、区ホームページ上ですみだエココラム(すみエコ)の配信を令和 7 年 1 月 5 日に開始した。

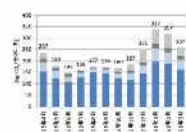
すみエコでは、委員が発信したい環境に関する情報をコラム形式で配信した。配信の際には、SNS（X、Facebook）投稿で周知を図った。初回配信時には、区民会議の紹介も併せて行った。

【令和7年1月5日配信】
冬のリビングでの節電の心得

月刊すみだエココラム

2021年02月19日 午後 1:02:53

155

[illegible][illegible]

「これにより、原本の電子データが復元されますので、
 ・原本が消失した場合、電子データから原本の電文を上げることが可能となります。
 ・また、複製、改ざん、削除、加工、送信履歴の取得、送信日時、送信元、送信先、送信内容の取得、
 ・また、送信履歴の取得も可能です。」

「しかし、電子データは、複製、改ざん、削除、加工、送信履歴の取得、送信日時、送信元、送信先、送信内容の取得、
 PC上で1つのデータの複製が可能です。この複製の取得は、送信履歴の取得が可能です。
 電子データのコピー（複製）の取得は、送信履歴の取得が可能です。
 ・送信履歴、送信日時、送信元、送信先、送信内容の取得、送信履歴の取得、送信日時、送信元、送信先、送信内容の取得、
 1年以内の送信履歴の取得が可能です。送信履歴の取得は、送信履歴の取得が可能です。」

[illegible]

出典

下Page 10 計算結果表 1-2 計算結果表 1-3

お問い合わせ

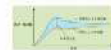
このワークは、**最終的な答えは25歳**です。

【令和7年2月5日配信】
「地球環境と緑」・「梅まつり」

月刊すみだエココラム

資源：<http://www.110.jp>、<http://www.112.jp>

2月➡

[illegible]

(2) 時点を μ として置く。

[illegible][illegible]

事件：ふくしま新聞 水戸市より
 環境省 水質に悪影響を及ぼす（河川浄化）
 原因：下水道処理場から流出した汚泥が川に流れ込み

お問い合わせ

上列の各項目に於いて、 α は、 β と等しい。

(ウ) 区民への情報発信の検討

区民への情報発信の内容や方法について検討した。

○検討結果

まず、区民会議が何なのかを発信する必要があり、SNS 等を活用して区民会議や取組について情報発信していく。

また、区民、企業、団体等の緑に関する取組を取り上げて情報発信していくと区民の周知につながり、取組を行う主体の PR にもなるため、区民会議以外の取組の発信についても検討していく。

環境の日が区民にあまり知られておらず、有効に活用できていない。今後、環境の日を活用した情報発信を行っていくべきである（例えば、環境の日に区民会議で緑の維持・育成について取り組んでいることや環境に関する情報（記事）を発信するなど）。さらに、環境の日には、環境に関する情報発信だけでなく、ゴミ拾いなどの具体的な行動を実践することも検討していく。

(まとめ)

区民への情報発信の強化の取組を通して、区民会議及びその活動を知ってもらい、区民の方に環境について関心を持ってもらうきっかけを作ることができた。

情報発信について、環境の日が上手く活用されていない現状があるが、環境の日を活用していくことが有効であり、その内容・方法について議論した。

環境の日の活用の 1 つとして実施したすみだエココラムの配信では、SNS を活用することで、委員が広く区民に対して環境に関する発信をしていく場を作ることができた。委員が区民に意見や活動を伝えることができるようになり、委員の活動のモチベーションにつながることも期待される。

今後、環境の日を活用した情報発信や取組を検討していくとともに、実施の際には、SNS の活用を強化していく。

ウ すみだ環境フェアへの出展

(ア) 令和5年度すみだ環境フェア

前期の区民会議のテーマが気候変動であったことを踏まえ、「知って・動いて・エコに得♪ 2023年墨田区民エコ会議」というタイトルとして気候変動に関する出展を行った。

内容としては、地球温暖化等の現状説明、区の環境区宣言・ゼロカーボンシティ宣言の紹介、地球温暖化対策・ゼロカーボンに向けて必要となる緩和策と適応策についての展示を作成し、パネル展示を行った。また、来場者との双方向の意見交換の場とするため、来場者がゼロカーボンに対し、どのように取り組んでいきたいかパネルに付箋を貼る形で宣言してもらい、意見を募った。併せて、タブレットを使用し、来場者に環境保全課で作成した環境学習ツールを体験してもらう場を設けた。

○開催日 令和5年6月24日（土）及び25日（日）

○場所 すみだリバーサイドホール イベントホール

○実施結果

- ・環境フェア全体の来場者数 558 名
- ・すみだ環境共創区民会議ブースの来場者数
 - 【6月24日（土）】189 名
 - 【6月25日（日）】166 名 ※昨年度は2日間で105 名



【環境フェアで出た区民からの宣言まとめ】		
1 節電関係	55件	・節電を心がける・こまめに電気を消す 30件 ・冷蔵庫関係 12件 (開閉を減らす6件、設定温度1件、つめすぎない4件、台数を減らす1件) ・冷暖房 12件 (使用量を減らす5件、設定温度4件、フィルター掃除1件、うちわを使う1件、扇風機を活用1件) ・照明を買い替える 1件
2 ごみの関係	25件	・ごみの減量 6件 ・食べ物を残さない 6件 ・マイボトル 6件 ・エコバッグ 5件 ・無駄なものを買わない 1件 ・リサイクル 1件
3 節水関係	8件	・節水（シャワーの量を減らす等） 8件
4 緑化	2件	
5 その他	8件	・下水に油を流さない ・移動に車を使わない ・できることからやっていきたい ・二重窓にします。 ・すべてのエコを遂行してます！！ ・皆でやろう環境化 外2件

○委員の意見（抜粋）

- 来場の動機付けのため、SNS を活用すべきである。
- 映えスポットを設ける、ハッシュタグを活用するなど、SNS で区民に拡散してもらえるとよい。
- 手に取って触れられるような物があつた方が行動変容を促せてよい。
- 昨年よりも内容が充実し、パネルに目を向けてくれる人が増えた。
- 区民会議が何者で何をやっているかをまず伝えた方がよい。
- 景品があり、来場者が喜んでいて、来年出展の際は景品の検討が必要である。
- アンケート等で区や区民会議に望むことを回収できたらよかった。
- 環境の日を知らない人が多かった。環境の日や区民会議をもっとアピールできるとよい。
- 地球くんをもっと活用した方がいい。

（まとめ）

ゼロカーボンに向けての区民の宣言について、今期のテーマである緑化に関する宣言は2件のみであった。自宅内でできる、緑化より取り組みやすいことを挙げている区民が多かったが、ゼロカーボンと緑化が直接結びつく認識が高くないこともその要因であると考えられる。

また、来場の動機付け、区民会議や取組のPRのため、環境イベント前後に関わらず SNS 等での情報発信が重要である。

(イ) 令和6年度すみだ環境フェア

今期のテーマ「緑の維持・育成」を踏まえ、「育てよう 墨田の緑と環境」というタイトルでブース出展を行った。内容としては、すみだのおすすめグリーンスポットマップ、すみだ環境共創区民会議と活動の紹介、地球温暖化と緑の役割、カーボンニュートラル、ゼロカーボンシティ宣言などについてポスター展示を行った。また、朝日信用金庫の寄付で区が導入する電気自動車のラッピングデザインに関する投票ブースを設置し、来場者に投票をしてもらった。

ブース来場の希望者に、石井委員が撮影した花や緑の写真を活用したポストカードや河田委員が作成した菜の花の種キットの配布を実施した。いずれもQRコードを印刷・貼付し、区民会議ホームページにリンクできるようにした。

○開催日 令和6年6月15日（土）及び16日（日）

○場所 オリナス錦糸町

○実施結果

- ・環境フェア全体の来場者数 835 名（昨年度：558 名）
- ・すみだ環境共創区民会議ブースの来場者数
 - 【6月15日（土）】305 名（昨年度：189 名）
 - 【6月16日（日）】446 名（昨年度：166 名）



○委員の意見（抜粋）

- ・ 緑と花というテーマは子どもから大人まで親しみやすく、来訪者にわかりやすく伝わった。
- ・ 開催場所がオリナスであるため、若い家族を中心に多くの来場があり、前回よりアピールできた
- ・ 区民会議の説明パンフレット、HPの URL や QR コードを載せた名刺のようなものを配れると、区民会議の周知になる。
- ・ ポストカードは表がきれいな写真で、裏面は区民会議の QR コード・インスタ案内があり、ポストカードをきっかけに花に興味がある人が区民会議に興味を持ってもらえると思った。
- ・ ポストカードを来年作成する場合は、1 年間を通じた草花をポストカードにするのがよい。
- ・ 菜の花の種の配布について、種がどのように育ったかなど配布の効果がわかるとよい。
- ・ ポストカード等の景品については、予算化を希望する。
- ・ QR コードについて、アクセス数で効果が検証できるとよい。
- ・ 電気自動車のアンケートはお客さんと会話するきっかけになった。
- ・ ブースは写真映えして華やかでお客さんが立ち寄りやすかった。
- ・ SNS での情報発信は継続していくべきである。
- ・ 気候変動・地球温暖化問題についてもっと PR できるとよかった。
- ・ ゼロシティカーボン宣言は知らない人が多いので周知が必要である。

（まとめ）

オリナスでの開催で例年より多くの来場があり、多くの方にすみだ環境共創区民会議、墨田区のおすすめグリーンスポットなどについて紹介をすることができた。

花のポストカード配布について、非常に好評で花に興味を持つ方が多くいることがわかった。今後、情報発信の際に区内の花の写真を活用することが有効であると感じた。

また、菜の花の種の配布も好評であったが、実際に持ち帰った種をどのように育てたか、どのように感じたかなど取組がどのような影響を及ぼすかなど検証する必要がある。

エ 緑の維持・育成についての検討

今期のテーマ「緑の維持・育成」について検討を行った。まず、「緑の維持・育成のために区民の方がどういった行動をとっていけばよいか」について、委員で意見を出し、その結果を踏まえ、議論を行った。また、議論の際に、住民が「緑の維持・育成」に取り組む事例として、友好都市である長野県小布施町の「おぶせオープンガーデン」について取り上げた。

（検討結果）

「緑の維持・育成のために区民の方がどういった行動をとっていけばよいか」について、委員から多く出た意見を4つの項目「緑に興味を持ち、緑に触れる」、「緑を育てる」、「緑について考え学ぶ」、「情報を発信する」に分類した。

1 緑に興味を持ち、緑に触れる

- ・区民が興味をもつ。
- ・緑の必要性を感じる。
- ・緑にふれる機会を増やす。
- ・区内をフィールドワークするし区内の緑を知る。
- ・地域の緑地の利用促進（公園や緑地を利用し、地域の自然を大切にする意識を高める。）
- ・地域の清掃活動に参加し緑地をきれいに保つ。
- ・植樹イベントへの参加

2 緑を育てる

- ・緑を実際に育てる活動の推進
- ・自宅の路地花壇や庭の手入れ
- ・家庭菜園やベランダ菜園、軒先菜園を広げる。
- ・日頃から緑を育てる。
- ・個人で軒先やベランダに緑を増やす。また、そのためのアドバイザーの認定。
- ・個人で植栽を楽しむ（また、その機会をつくること）。
- ・家庭で緑を育てる（プランター・土・種の無料配布事業）→状況の SNS 発信→レポート提出→環境フェアで発表

3 緑について考え学ぶ

- ・勉強会、講習会への参加
- ・栽培方法などを学ぶ機会を増やす。
- ・森林破壊の地球環境への影響について考えることから始める。
- ・環境教育（講座やワークショップ）への参加

4 情報を発信する

- ・自治体や企業の取組の周知、SNS 発信
- ・新しい取組事例の紹介
- ・個人の緑の維持・育成の取組の情報発信。また、取組に係る意見を行政に届ける。
- ・緑化の推進を関連団体に呼び掛けていく。
- ・区内の掲示板等を活用するなどして、区民の行動を発信していく。
- ・情報共有と啓発活動（SNS や地域の集まりでの情報共有、共創会議のホームページ活用）

・小布施町のおぶせオープンガーデンについて

オープンガーデンとは個人の庭などを一般の方に公開する活動のことで、「おぶせオープンガーデン」は、2000（平成 12）年に 38 軒でスタートした。これは、小布施市が 1980（昭和 55）年から取り組んできた「花のまちづくり」、また、小布施町に伝わる「縁側文化」「お庭ごめん」の相乗効果として、訪れた方々を花でもてなし、会話を通して交流を図るもので、官民が一体となって取り組んだオープンガーデンとしては全国初のものである。

当事業に関して、委員から要望のあった質問について小布施町観光課の担当者に内容をお聞きし、それを踏まえ墨田区においても参考となることがないか検討した。



おぶせオープンガーデン写真 ※出典：OBUSE Open-Garden(<https://obuse-opengarden.com/>)

おぶせオープンガーデン概要	
①当該事業をはじめたきっかけ	小布施町は、昭和 55 年以前から花によるまちづくりを進め、官民一体となり自治会花壇、公共花壇づくりに取り組むとともに、個人のお宅でも、花による庭づくりをされる方が増えていった。 オープンガーデンは、NHK「趣味の園芸」講師などでご活躍されている杉井明美先生より、発祥地のイギリスのオープンガーデン「イエローブック」の「小布施版」を提案され、町が広報誌による募集や、ガーデニングに取り組まれる方々に直接参加を呼びかけ、38 軒でスタートしたものである。
②当該事業をはじめてみての反響	町にお客様が訪れることにより、花仲間の交流の輪が広がり、町全体にも活気が出ると共に、オープンガーデンのお宅のみならず、近所のお宅もきれいになり、地域がきれいになった。
③どうしてここまで多くの家庭が参加していただけたのか（その働きかけの仕方など）	当初は個人のお庭を公開することに抵抗があり、なかなか参加してもらえなかった。また、参加したいが誘われるのを待っている方もいた。そんな方々の口コミでオープンガーデンが広く周知されるようになり参加者が増えた。 働きかけについては、広報誌による募集、町が直接参加を呼び掛けるなどした。
④補助金等の金銭的支援あるか	小布施町ではスタート時点から、オーナーの皆さんに、苗代等の補助金は差し上げていない。町ではオープンガーデンブックの発行とお宅の看板を用意しているだけである。 オーナーの方の好意と善意のもとづくボランティアによって成り立っている。開始して数年が経った頃に、補助ではないが支援しようかという話があったが、オーナーさんから「私たちは、支援をもらうために行っているのではない」と、反対の意見があった。
⑤オープンガーデンを作る際にアドバイザーのような人がいるか（制度があるか）	特に制度はない。設立については、杉井明美先生の提案によるものである。
⑥町民のモチベーションはどこにあるか	花のまちづくりは、小布施人の「町を愛する心」「お客様をおもてなしする心」から生まれた活動である。訪れる人に、花を通じた人と人との交流を楽しんでいただきたいという思い、そしてそこから交流の輪を広げその関係性を深めていきたいという思いが、オープンガーデンの根底にあると考えている。 また、住む人や来る人にとって癒される町、花をみて心を和ませ元気になる町でありたいという思いのもと今後も進めていきたい。

○委員の意見（抜粋）

- ・ 具体的に行動に移すことが必要である。例えば、公園を一部管理させてもらい、緑を育てることなどができたらよい。
- ・ 墨田区は個人の庭があまりないので、企業、商店などと協力していくとよい。例えば、北斎通りをガーデニングする（企業とも連携する。）のはどうか。
- ・ 条例等で整備されれば、花の推進が進むのではないか。
- ・ 墨田区には、自然としての緑を推進してほしい。
- ・ 北十間川周辺のハンギングバスケットを別の場所で限定して実施できたらよい。
- ・ 種の生育記録を SNS 発信してもらうとおもしろい。グループをつくり生育記録を載せ合えとなおよい。
- ・ 花壇やプランターを増やしながらも、今ある樹木を維持・管理していくことも重要である。
- ・ 墨田区と小布施町環境が異なり、庭などの花を育てるスペースがない。
- ・ 小布施は、自然に接する機会が多い。そのため、自然に対する知識が豊富である。墨田区で行動するには、知識も必要である。無料のガーデニング講座があるとよい。
- ・ 種や苗を配布するときには、育て方も一緒に教えると緑化推進につながる。
- ・ 種から育てる意識が、まちをきれいにする意識につながる。
- ・ 小布施町では町民がきれいにしようという意識がある。小さな活動が連鎖するように広がっている。
- ・ おぶせオープンガーデンのまちを愛する心が花や緑を育てるという考え方は墨田区でも通じるものがある。
- ・ 小布施町のように、墨田区でも軒先園芸を通して交流が生まれる。
- ・ 地域毎に花の地区を作るのがよいのではないか。

（まとめ）

多くの区民が「緑に興味を持ち、緑に触れる」、「緑を育てる」、「緑について考え学ぶ」行動をとることが「緑の維持・育成」のために重要であること、また、そういった行動・取組について「情報を発信する」ことが必要である。

実際に緑を育てる活動を通して、まちを愛する心を醸成し、それがさらなる緑を育てようという意識につながることを期待できる。

4 区への提言

(1) 花と緑の特区の創設

花を種から育てることは、自然とのつながりを深め、心の豊かさを育む重要な活動である。墨田区の地域ごとに特区を設け、区民が管理に携わりながら、その活動を展開する。

ア 花を育てる意義

花を育てることは、緑を豊かにするだけでなく多くの意義がある。

○自然とのつながり

自分の手で育てることで、自然のサイクルを理解し、感謝の気持ちが生まれる。

○心の癒し

花を育てることは、ストレスの軽減やリラックス効果をもたらす。

○教育的価値:

成長過程を観察することで、科学的な知識や忍耐力を学ぶことができる。

○環境への貢献

花は生態系の一部であり、受粉や生物多様性の維持に寄与する。

○地域の活性化

地域の花壇や公園を整備することで、地域住民の交流が生まれる。

○世代をつなぐ

子供たちと高齢者が共に花を育てることで、世代間のコミュニケーションが促進される。

イ 育てる植物

令和6年度すみだ環境フェアで種の配布が好評であった菜の花を中心に、アサガオ、ネモフィラ、ニチニチソウ、ヒマワリ、マリーゴールド、ハボタン、ノースポール、コスモスの育成を提案する。

○菜の花

菜の花は、アブラナ科の植物で、主に食用や観賞用として親しまれている。春に黄色の花を咲かせ、香りが良いことで知られている。花は密集して咲き、見た目にも美しい。春の風物詩として、菜の花畑が観光地として人気である。



○その他の植物の紹介

【アサガオ】

朝に咲き、夕方にはしぼむ。観賞用として人気が高い。
墨田区の緑のカーテンの取り組みは継続し、区民に定着している。



【ネモフィラ】

青い花が美しく、春の訪れを感じさせる。近年、花の
じゅうたんとして人気が高い。



【ニチニチソウ】

夏の暑さに強く、長期間花を楽しめる。



【ヒマワリ】

明るい太陽を象徴する花。成長が早く、子供たちにも
育てやすい。



【マリーゴールド】

虫除け効果があり、庭に彩りを加える。人気アーティスト
の曲の題名にもある。初心者でも育てやすい。



【ハボタン】

冬に咲く珍しい花で、色とりどりの葉が特徴。
多年草なので次の年も楽しめる。挿し木でも増やす
ことができる。



【ノースポール】

中心が黄色の白い小ギクで、花期が長く育てやすい人気の
一年草です。比較的寒さに強い。



【コスモス】

秋に咲く花で、さまざまな色があります。風に揺れる姿が
美しく、観賞用として人気があります。育てやすく、花壇
や庭に彩りを加えます。



ウ 特区の展開

以下の特区を設け、花を育てる活動とともに地域毎の取組を展開していく。

①観光特区

スカイツリー周辺で花をテーマにしたイベントを開催する。

②教育特区

墨田区の小中学校・高校で花育てのワークショップを実施する。

③アート特区

すみだ北斎美術館で花をテーマにしたアート展示を行う。

④健康特区

すみだ保健子育て総合センター周辺での花育てワークショップを通じて子育ての支援と心身の健康を促進する。

⑤地域交流特区:

錦糸町駅周辺で地域住民が集まる交流イベントを開催する。

⑥水辺特区

東京ミズマチエリアで水辺の環境を活かしたイベントを開催する。

⑦京島地区特区

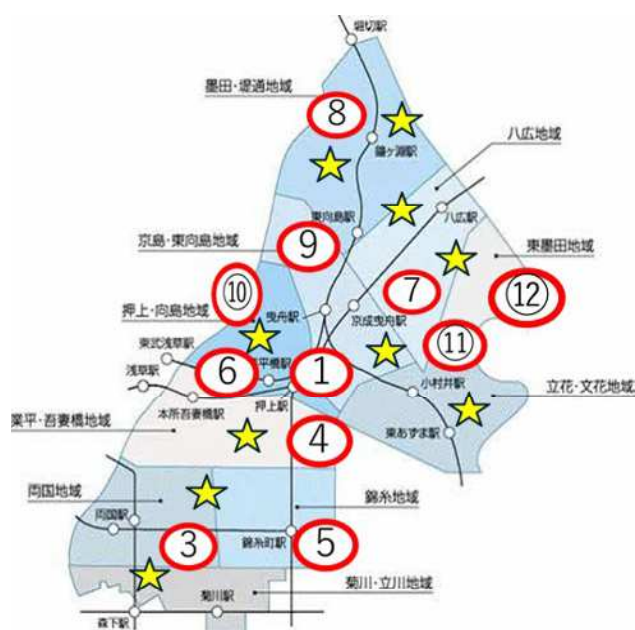
京島地区は、路地園芸が盛んで古い町並みが残っている。地域住民が参加する花育てイベントやワークショップを開催し、地域のコミュニティを活性化する。

⑧鐘ヶ淵駅周辺特区:

鐘ヶ淵の近くには、たもんじ交流農園があり、蛍を育てている。この取組を通じて、地域の自然環境を守り、蛍の生態系を学ぶ機会を提供する。また、子どもたちは土に触れ、自らの手で口に入る野菜を育て、時には大人と一緒に調理のお手伝いをするすることで、実体験を通した食育を図る。

⑨東向島駅周辺特区:

東向島駅から近い百花園で花を楽しむことができる。駅から百花園への道の整備をする。東武鉄道博物館があり、花壇もある。花をテーマにしたワークショップやイベントを開催し、地域の活性化を図る。



⑩隅田川特区

隅田川は桜が有名で、春には多くの観光客が訪れる。桜をテーマにしたイベントやお花見の取組を通じて、地域の魅力を発信する。桜、菜の花。一面のネモフィラ、コスモスなどで飾る。

⑪千葉大学との連携

千葉大学との共同研究やワークショップを通じて、地域の花育て活動を充実させ、学生の参加を促進する。

⑫旧中川水辺公園

旧中川水辺公園は、自然と水辺の魅力を楽しむことができるスポットである。

（まとめ）

花を育てることは、自然とのつながりを深め、心の豊かさを育むだけでなく、地域の活性化にも寄与する。特区で花を育てる活動を展開することで、地域の教育、文化、経済を支える新たな取組が生まれる。これらの活動を通じて、地域全体が活性化し、次世代に受け継がれる文化を育むことが期待される。

（２）花と緑を活用した情報発信

墨田区には魅力的な花と緑のスポットが多く存在する。区民にそれらを知ってもらい、「緑の維持・育成」さらには環境について考え、行動してもらうために、区内の花と緑を活用した情報発信を行う。

○花と緑の写真・動画の提供

- ・区民会議委員が、場所毎・季節毎の見頃の花と緑の写真・動画を撮影し、それらを区に提供し、タイムリーに活用する。
- ・区民からも情報を募り委員が撮影したり、委員だけでなく区民グループを作成し、区民からも知られざる区内各所の花と緑の写真・動画を提供してもらう。
- ・区内の学校、企業など団体が実施する花と緑に関する活動の情報、それらの写真・動画を提供してもらう。

○展開方法

- ・区の SNS（インスタグラム等）で、地域の情報を交えて季節の花と緑の写真・動画を投稿する。
- ・すみだ環境フェア等各種イベントの景品として、ポストカードとして配布する。
- ・区内の花と緑について多くの区民に知ってもらう、ポジティブな印象を与えるなどの目的で区刊行物等で写真を利用する。
- ・区、区民会議、千葉大学（写真部）等が連携し、花と緑のフォトコンテスト等のイベントを実施する。
- ・環境の日を活用した情報発信時（区報、SNS 等）に写真を利用する。
- ・団体が行う花と緑に関する活動を区が SNS 等で紹介していく。
- ・花と緑の特区内で育成する植物の生育記録やイベントの情報発信を行う。また、SNS グループなどを作り情報を載せ合うなど、花と緑のコミュニティづくりを図っていく。

○活用する写真の例





（まとめ）

今期の活動を通して、区内には魅力的な花と緑のスポットが多く存在すること、一方でそれらを知らない区民が多くいることを感じ、区民の方が知る機会を増やすことが重要であると考えた。さらに、知るだけでなく、区民が考え、行動をすることがさらなる「緑の維持・育成」につながるため、どのようにして区民を巻き込んで活動を行っていくかが課題である。



すみだ環境共創区民会議
令和5年度・令和6年度

令和7年3月

発行 すみだ環境共創区民会議
事務局 墨田区資源環境部環境政策課
